

助成事業計画書

1 申請者の概要

(1) 連携体代表者

名 称	〇〇食品株式会社		
代表者の役職・氏名	代表取締役 〇〇 〇〇		
住 所 ホームページアドレス	郵便番号000-0000 〇〇市〇〇区〇〇町〇丁目〇番〇号 http://www.ooo.co.jp		
担 当 者 所属・役職・氏名 電話・ファックス番号 E-MAIL	企画部 商品企画課長 〇〇 〇〇 000-000-000 000-000-000 oooo@oooo-co.ne.jp		
資本金・出資金	10,000千円	従 業 員 数	30人
主たる業種	〇〇食品製造業	設 立 日	平成〇年〇月〇日

* 申請者の会社等の概要がわかるパンフレット等を必ず添付すること。

(2) 連携体構成員（連携体代表者以外）

区分	名称 (企業名等)	代表者	住 所	業 種
1	△△農園	△△	△△市△△区△△町△丁目△番△号	農業者

* 連携体構成員の会社等の概要がわかるパンフレット等を必ず添付すること。

2 事業内容

事業名称（テーマ）	兵庫県内産△△有機野菜を活用した〇〇和菓子の開発
-----------	--------------------------

概 要	<p>(1) 事業概要 農産物を活用した事業の目的や開発する新商品等の特色等を10行程度で、簡潔に記載してください。(作成時には、この説明文書は削除してください。以下、同様です。)</p> <p>①事業目的 日本で生産される△△はその80%が兵庫県産であるが、国内生産△△のうち有機野菜の割合は5%に満たない。また、当社の既存商品は材料価格の高騰から過去3年間の販売が低調となっているものの、健康食品として販売している商品の売上げは昨今の消費者の健康志向から上昇方向にある。そこで、本事業は有機△△を活用してその独特な酸味の強さを生かした和菓子の開発することを目的とする。</p> <p>②開発する新商品等の特色 希少な国内産有機△△の活用のほか、それを饅頭皮に練りこむとともに、サイコロ状に加工・加熱処理をした△△が餡のなかにも入った他に類のない和菓子である。</p> <p>(2) 具体的研究開発方法 研究開発・試作品製作の取組方法、既存商品の状況やこれまでの開発状況、事業の現状・課題、達成目標などを記載してください。</p> <p>当社ではこれまでも□□を饅頭皮に練りこんだ商品を開発してきた実績がある。その練りこみ行程において・・・・・・を活用して・・・・・・という手法を開発した結果、皮全体に□□を満遍なく練りこむことを可能とした。 本開発では、加熱処理により形崩れしやすいサイコロ状△△の形状をいかに残しつつ餡と均等に混ぜ合わせるか、△△の味覚をいかに最大限に引き出していくが課題である。 今回、◇◇試作機を購入しサイコロ状の△△と餡の混合を行い、その・・・・・・や</p>
-----	--

	<p>・・・・・・に関して最適な製造方法を構築し、試作品を開発することとしている。 本開発においては、直に△△の味覚を楽しめるように・・・・・・の処理を行いその形状を保ち、課題を解決していくものである。 また、農業者は酸味度を高めた△△を有機農業で生産し、■測定器による酸味測定を行うとともに◆◆装置による長期保存方法の開発を行うことにより、新商品に最適で味覚の優れた△△有機野菜の供給を目指すこととする。 有機△△の形状を保った状態での餡との混合方法確立の達成を目標として、展示会出展とテスト販売を実施する。</p> <p>(3) 事業成果（試作新商品等）の活用方法 成果物である試作品等の製作数量や用途等を記載してください。</p> <p>開発した試作品は、百貨店バイヤーが集まる展示会（500～600人規模）に出展、その評価を得て、次年度は、試作品200個のテスト販売を行う。</p> <p>※適宜記載枠の拡大、資料添付（1、2枚程度）可</p>
	記載項目については、必ず記載してください。追加内容があれば適宜追加ください。
必要性	(記載項目) ①開発する商品等の社会的背景 ②開発する商品等のニーズ
新規・革新・優位性	(記載項目) ①開発する商品等の新規性・革新性 ②類似商品等との相違点、競争優位性 ③連携体の強み
市場性	(記載項目) ①開発する商品等の市場占有シェア及びその根拠 ②販路開拓の方法及び既存販路の活用方法 ③想定ユーザー・ターゲット（年齢・性別・地域等）
実現可能性	(記載項目) ①問題解決・目標達成の可能性 ②助成期間内における実現可能性
地域経済活性化への波及効果	(記載項目) ①申請者、連携者への効果 ②申請する助成事業による地域への波及効果や地域イメージ向上
その他特記事項	(記載項目（該当がある場合のみ） その他特に申告しておきたい内容があれば記載ください。) ①特許等取得状況（概要添付のこと） ②開発商品の公的機関認可等の必要性・取得予定 ③申請事業に関連して他機関からの助成等を受けた実績、受ける予定
事業の実施日程	(開始予定日) 年 月 日 (完了予定日) 年 月 日 (最終完了予定日) 年 月 日 ※事業期間が1年を超える場合に記載。
事業成果の目標	(参考：記載に際しての留意事項) ①〇年以内に事業化すること、売上高が〇年には〇%の増加を目標とするなどと連携体構成員ごとに記載すること。 ②連携体の構成員毎に以下の基準以上で目標設定する必要があります。 ア 中小事業者 事業化目標：3年以内とする。 売上目標：事業終了後、5年以内に申請時に定めた目標（売上など）の達成。 イ 農林漁業者 事業化目標：3年以内とする。 売上目標：事業終了後、5年以内に申請時に定めた目標（売上など）の達成。 〇〇食品(株)：令和☆年事業化（開発商品の売上計上）、その後5年目で〇〇円の売上。 △△農園：令和☆年事業化（開発商品の売上計上）、その後5年目で〇〇円の売上。
その他	〇〇年度〇〇支援事業採択

3 事業資金計画及び事業スケジュール

(単位：円)

区分	全体事業費 (a)=c+d+e	助成対象経費 (b)	助成申請(予定)額 (c)=(b-※)×2/3以内	自己資金等		テスト販売収入額(※)
				自己資金(d)	借入金等(e)	
1年目	研究開発費	3,000,000	3,000,000			
	販路開拓費	100,000	100,000			
	租税公課	310,000				
	小計	3,410,000	3,100,000	2,066,000	1,344,000	0
2年目	研究開発費	1,901,000	1,901,000			
	販路開拓費	1,200,000	1,200,000			
	租税公課	310,100				
	小計	3,411,100	3,101,000	1,934,000	1,477,100	0
合計	6,601,100	6,001,000	4,000,000	2,821,100	0	200,000

注1) 連携体全体の金額で記載し、助成申請額(各年千円未満切捨)総額は4,000千円以下とする。

注2) テスト販売実施に伴う収入が発生した場合には、当該収入を助成対象経費から差し引いて助成申請額を算出するものとする。

注3) 2年間の助成希望の場合1、2年目ともに記載すること。ただし、申請は1年毎に行う必要があり、今回の交付申請金額も1年分であることに注意すること(1年以内で終了の場合は2年目の記載不要)。

実施内容	
申請前の取組状況	<p>助成金の交付決定は、令和〇〇年〇〇月〇〇日(予定)であり、助成対象期間は、交付決定日以降に発生する経費です。</p> <p>〇〇月 有機△△を使用した試作品の検討</p> <p>〇〇月 試作に当たった課題の抽出 △△を使用した〇〇の試作</p>
1年目	<p>〇〇月～〇〇月 課題解決のための方策の検討</p> <p>〇〇月 連携事業者 △△の種まき</p> <p>〇〇月 有機△△の収穫</p> <p>〇〇月 第1回目試作及び展示会</p> <p>〇〇月 課題の再抽出</p>
2年目	<p>〇〇月～〇〇月 課題解決のための方策の検討</p> <p>〇〇月 第2回目試作及びテスト販売検討</p> <p>〇〇月 テスト販売(1,000円(税抜)×200個=200,000円)</p> <p>テスト販売：展示会出展。来場バイヤーに対してPR。併せて、既存顧客に対しても周知を行う。</p> <p>〇〇月 課題の再抽出</p>

注1) 助成申請が1年以内で終了する場合は、2年目の記載は不要。

注2) 現在開発中の商品について申請する場合は、いつから取り組んだのか、そして現在の取組状況が分かるように記載し提出すること。

注3) テスト販売を実施する場合は、必ず実施の方法について詳しく記載すること。